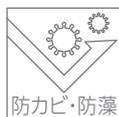
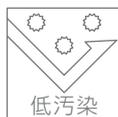


高耐候 超低汚染 2液弱溶剤形ふっ素樹脂塗料

セラMフツソ

JIS K 5658 建築用耐候性上塗り塗料1級

適用素材 コンクリート、モルタル、鉄、アルミ、亜鉛めっき等



環境に優しく、耐久性の高い
セラミック変性ふっ素樹脂が
建築物や鋼構造物を
やさしく保護します。

高耐候 超低汚染 2液弱溶剤形ふっ素樹脂塗料

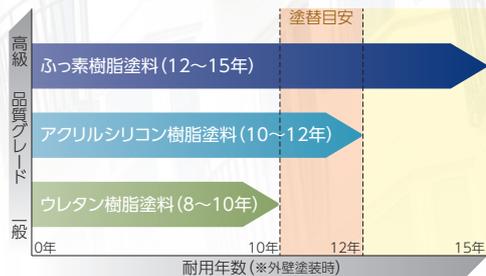
セラMフツソ

Cera M Fusso

環境に優しく、耐久性の高い
セラミック変性ふっ素樹脂が
建築物や鋼構造物をやさしく保護します。

資産価値の向上

従来のウレタン樹脂系やアクリルシリコン樹脂系塗料に比べて耐久性が非常に高いため、長期メンテナンスサイクルを含めたライフサイクルコストが低く、資産価値の向上と大きなコストメリットを生み出します。



特長

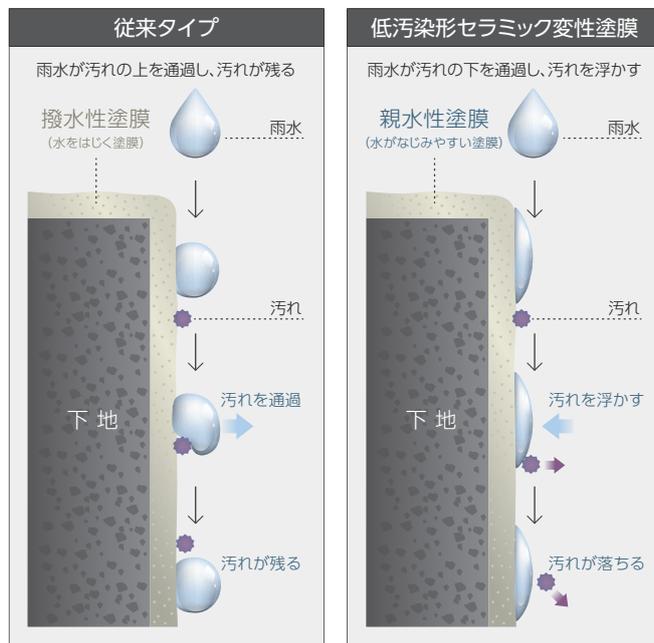
- 1 耐候性 (JIS K 5658 1級)・耐汚染性に優れています。
- 2 塗料用シンナーで希釈可能であり、臭気が少なく作業環境にもやさしい塗料です。
- 3 幅広い素材 (旧塗膜) 適性を有しています。
- 4 抜群の塗りやすさに加え、仕上り性 (トマリ、肉持ち感) に優れています。
- 5 防カビ性、防藻性を有しています。

低汚染性

屋外バクロ試験結果 (6ヶ月バクロ 当社比)



低汚染のメカニズム



標準塗装仕様書

■ 新設仕様

コンクリート・モルタル面 (平滑仕上げ)

工程	塗料名・処置	塗装回数	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗装間隔 (23℃)	塗装方法	希釈率 (重量%)
素地調整	エフロ・レイトランス・ゴミ・汚れなどは、ワイヤーブラシ・サンドペーパー・ウエスを使用して除去し、乾燥した清浄な面とする。					
下 塗	浸透形Mシーラー (ベース:硬化剤=4:1)	1~2	0.14	4時間以上 7日以内	ローラー	無希釈
			0.18		エアレス	
中 塗	セラMフツン中塗 (ベース:硬化剤=10:1) 塗料用シンナーA	1	0.12	4時間以上 7日以内	ローラー	5~15
			0.14		エアレス	10~30
上 塗	セラMフツン (ベース:硬化剤=6:1) 塗料用シンナーA	1	0.12	-	ローラー	0~10
			0.14		エアレス	5~10

コンクリート・モルタル面 (凹凸模様仕上げ)

工程	塗料名・処置	塗装回数	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗装間隔 (23℃)	塗装方法	希釈率 (重量%)
素地調整	エフロ・レイトランス・ゴミ・汚れなどは、ワイヤーブラシ・サンドペーパー・ウエスを使用して除去し、乾燥した清浄な面とする。					
下 塗	浸透形Mシーラー (ベース:硬化剤=4:1)	1	0.14	4時間以上 7日以内	ローラー	無希釈
			0.18		エアレス	
主 材	マルチタイルラフRE 上水	2	0.8~1.5	8時間以上 7日以内	吹付	1~10
中 塗	セラMフツン中塗 (ベース:硬化剤=10:1) 塗料用シンナーA	1	0.12	4時間以上 7日以内	ローラー	5~15
			0.14		エアレス	10~30
上 塗	セラMフツン (ベース:硬化剤=6:1) 塗料用シンナーA	1	0.12	-	ローラー	0~10
			0.14		エアレス	5~10

■ 塗り替え仕様

コンクリート・モルタル面

工程	塗料名・処置	塗装回数	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗装間隔 (23℃)	塗装方法	希釈率 (重量%)
素地調整	クラック、鉄筋の露出漏水などの部分に適切な処理を施す。劣化塗膜をケレン工具(皮スキ、ワイヤーブラシ)で除去し、ホコリ、汚れなどを高圧水洗で取り除き乾燥した清浄な面とする。					
下 塗	アレスホルダーHG 上水	1	0.30~1.50	8時間以上 7日以内	ローラー エアレス	1~10
中 塗	セラMフツン中塗 (ベース:硬化剤=10:1) 塗料用シンナーA	1	0.12	4時間以上 7日以内	ローラー	5~15
			0.14		エアレス	10~30
上 塗	セラMフツン (ベース:硬化剤=6:1) 塗料用シンナーA	1	0.12	-	ローラー	0~10
			0.14		エアレス	5~10

※上記各仕様書の所要量および膜厚は、一般的な条件での参考値です。したがって、被塗物の形状や塗装条件によって増減することがあります。
 ※中塗～上塗の代わりに上塗～上塗の塗り重ねも可能です。
 ※アレスゴムタイルニューラフなど弾性材の仕上げの場合、弾性硬化剤を使用してください。又、この時艶調整はできません。

コンクリート・モルタル面 (弾性・凹凸模様仕上げ)

工程	塗料名・処置	塗装回数	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗装間隔 (23℃)	塗装方法	希釈率 (重量%)
素地調整	エフロ・レイトランス・ゴミ・汚れなどは、ワイヤーブラシ・サンドペーパー・ウエスを使用して除去し、乾燥した清浄な面とする。					
新 設	エフロ・レイトランス・ゴミ・汚れなどは、ワイヤーブラシ・サンドペーパー・ウエスを使用して除去し、乾燥した清浄な面とする。					
塗 替	クラック、鉄筋の露出漏水などの部分に適切な処理を施す。劣化塗膜をケレン工具(皮スキ、ワイヤーブラシ)で除去し、ホコリ、汚れなどを高圧水洗で取り除き乾燥した清浄な面とする。					
下 塗	エコカチオンシーラー	1	0.13 0.17	2時間以上 7日以内	ローラー エアレス	無希釈
中 塗	ベース塗	1	0.6~1.3	2時間以上 7日以内	リシンガン 4.5~6.5mmφ	3~10
	パターン塗	1	0.6~1.3	8時間以上 7日以内	タイルガン 6~8mmφ	0~3
上 塗 (1回目)	セラMフツン中塗 (ベース:弾性硬化剤=10:1) 塗料用シンナーA	1	0.12	4時間以上 7日以内	ハケ、ローラー	5~15
			0.14		エアレス	10~30
上 塗 (2回目)	セラMフツン (ベース:弾性硬化剤=6:1) 塗料用シンナーA	1	0.12	-	ハケ、ローラー	0~10
			0.14		エアレス	5~10

一般鉄部 (塗替え) ・亜鉛メッキ面

工程	塗料名・処置	塗装回数	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗装間隔 (23℃)	塗装方法	希釈率 (重量%)
素地調整	劣化している塗膜はケレン工具で除去する。さびは電動工具やサンドペーパーなどを用いて除去し、清浄な面とする。素地露出部は工程2の下塗りをを用いて補修塗りを行う。					
鉄 部	劣化している塗膜はケレン工具で除去する。さびは電動工具やサンドペーパーなどを用いて除去し、清浄な面とする。素地露出部は工程2の下塗りをを用いて補修塗りを行う。					
亜鉛メッキ面	全面清掃、脱脂、目荒しを行い、清浄な面とする。白さびなどはワイヤーブラシ・サンドペーパーなどで除去する。					
下 塗	スーパーザウルスII (ベース:硬化剤=9:1) 塗料用シンナーA	1	0.14 0.17	4時間以上 7日以内	ハケ、ローラー エアレス	0~10
中 塗	セラMフツン中塗 (ベース:硬化剤=10:1) 塗料用シンナーA	1	0.12	4時間以上 7日以内	ハケ、ローラー	5~15
			0.14		エアレス	10~30
上 塗	セラMフツン (ベース:硬化剤=6:1) 塗料用シンナーA	1	0.12	-	ハケ、ローラー	0~10
			0.14		エアレス	5~10

※ 標準塗装間隔

	10℃	23℃
艶 有	16時間以上 7日以内	4時間以上 7日以内
艶調整品	48時間以上 7日以内	16時間以上 7日以内



KP-111



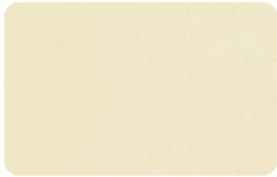
KP-110



KP-112



KP-223



KP-310



KP-121



KP-133



KP-221



KP-120



KP-127



KP-131



KP-80



KP-337



KP-336



KP-141



KP-247



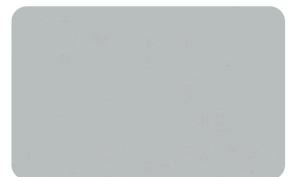
KP-330



KP-147



KP-350



KP-75



KP-347



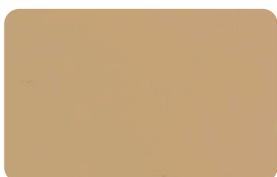
KP-150



KP-352



KP-70



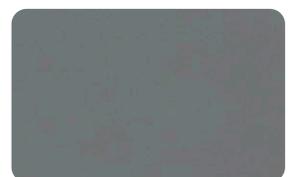
KP-356



KP-357



KP-368 ◎



KP-50



KP-367



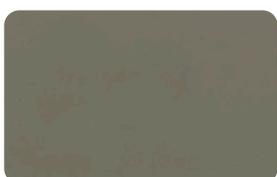
KP-167



KP-376



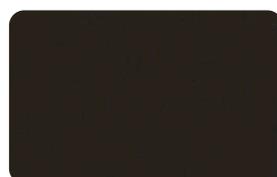
KP-379 ◎



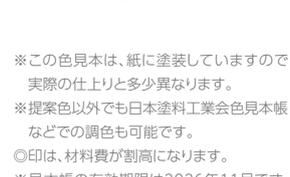
KP-170



KP-385 ◎



KP-185 ◎

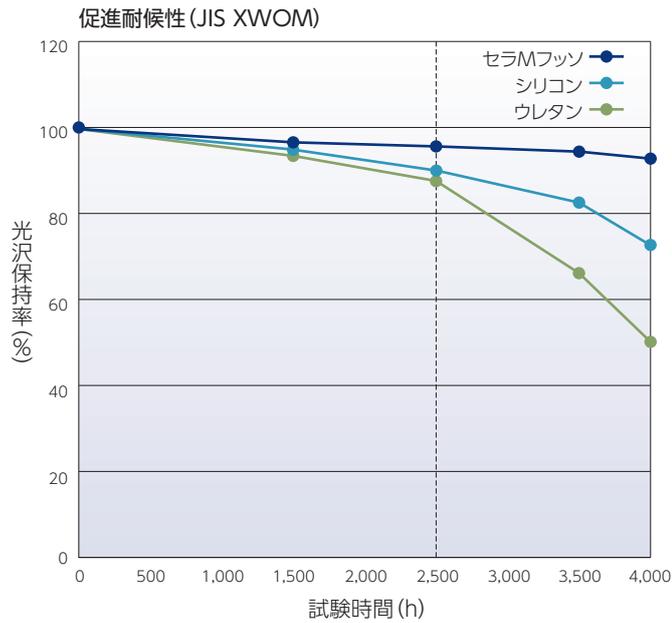


KP-379 ◎

※この色見本は、紙に塗装していますので
 実際の仕上りと多少異なります。
 ※提案色以外でも日本塗料工業会色見本帳
 などでの調色も可能です。
 ◎印は、材料費が割高になります。
 ※見本帳の有効期限は2026年11月です。

高耐候性

塗膜は劣化とともに、つや(光沢)が低下していきます。
つやの低下速度がゆるやかな程、塗膜の耐候性が高いことを表します。



JIS規格試験 試験結果

JIS K 5658 建築用耐候性上塗り塗料 1級の物性試験

試験項目	結果	規定
容器の中での状態	合格	主剤・硬化剤ともかき混ぜたとき、堅い塊がなくて一様になるものとする。
乾燥時間	23℃	合格 8時間以下
	5℃	合格 16時間以下
ポットライフ	合格	5時間で使用できるものとする。
塗膜の外観	合格	塗膜の外観が正常であるものとする。
隠ぺい率% (白及び淡色)	96	90以上
鏡面光沢度 (60度)	84	70以上
耐衝撃性(落球式)	合格	おもりの衝撃で塗膜に割れ及びはがれが生じてはならない。
付着性(クロスカット法)	合格	分類1以下であるものとする。
重ね塗り適合性	合格	重ね塗りに支障があってはならない。
耐酸性	合格	酸に接したとき異常がないものとする。
耐アルカリ性	合格	アルカリに接したとき異常がないものとする。
耐湿潤冷温繰返し性	合格	湿潤冷熱繰返しに耐えるものとする。
促進耐候性	合格	キセノンランプ照射2500時間で、塗膜に割れ・はがれ・ふくれがなく、光沢保持率は80%以上で、色の変化の程度が見本品に比べて小さくなく、白亜化の等級が1以下とする。

この試験結果は、艶有りのものです。

防カビ性・防藻性

防カビ性

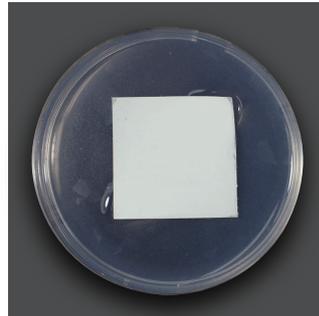


セラムフッソ

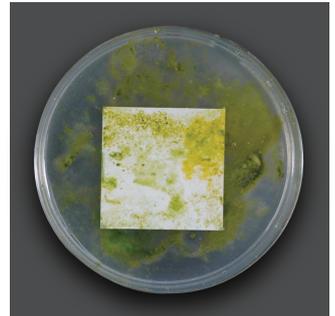


アクリル樹脂塗料
防カビ・防藻性を有さない一般塗料

防藻性



セラムフッソ



アクリル樹脂塗料
防カビ・防藻性を有さない一般塗料

素材(旧塗膜) 適性

素材	適性下塗
コンクリート	マルチタイルコンクリートプライマー-EPO、エポMシーラー、浸透形Mシーラー、アレスダイナミックシーラーマイルド など
モルタル	
スレート	
PC板	マルチタイルコンクリートプライマー-EPO、浸透形Mシーラー、アレスダイナミックシーラーマイルド など
押出成型板	エポMシーラー、浸透形Mシーラー、アレスダイナミックシーラーマイルド マルチタイルコンクリートプライマー-EPO
ブロック・ALC	アレスエアレスフィラー
木部	カンペ1液M木部下塗HG
鉄部	スーパーザウルスII、アレスダイナミックプライマー
アルミニウム	スーパーザウルスII、アレスダイナミックプライマー、エポマリンGX
亜鉛めっき	
硬質塩ビ・FRP	不要(研磨・脱脂必須)
窯業系サイディングボード	アレスダイナミックシーラーアクア
シーリング材	シーブラ

旧塗膜	適性下塗
吹付タイル	アレスホルダーHG、アレスダイナミックプラサフIIなど
スタッコ	
リシン	
焼付塗料(メラミン・アクリル)	スーパーザウルスII、アレスダイナミックプライマー、エポマリンGX
合成樹脂調合ペイント	スーパーザウルスII、アレスダイナミックプライマー

※この他の仕様を組むことも可能です。詳細については担当営業までお問い合わせください。

荷姿等

製品名	容量
セラムフッソ	1.5kgセット(ベース/12.9kg: 硬化剤/2.1kg)、弾性硬化剤/2.1kg
	3.5kgセット(ベース/ 3.0kg: 硬化剤/0.5kg)
セラムフッソ 中塗り	1.6kgセット(ベース/14.5kg: 硬化剤/1.5kg)、弾性硬化剤/1.5kg
	4kgセット(ベース/ 3.6kg: 硬化剤/0.4kg)
色	白・各色(艶調整は3分艶有まで)

汚れについて

- ①カビ、藻、シーリング材のじみ、鉄サビに起因する汚れは、従来塗料と同等のレベルです。
- ②塗装後3日〜1週間から落ちはじめ、その間に付着した汚れも徐々に除去されます。但し建物の構造上、本来の低汚染性能が十分に発揮しない場合があります。雨掛かりの少ない被塗面や、汚れが大量に流れ落ちる被塗面では、十

施工上の注意事項

- ①塗装後、乾燥不十分な状態で降雨・結露などで負荷が掛った場合や、低温、高湿度、通風のない環境では、ふくれ、はく離、割れ、白化、シミなどが発生するおそれがありますので、塗装を避けてください。
- ②長期間結露が継続し発生するような箇所への塗装は避けてください。塗膜はく離、ふくれ等の異状が発生するおそれがあります。
- ③可塑性が多く含まれる部材（塩ビ鋼板、ゴムパッキン、ラミネート、合成皮革、プラスチック、シーリング材など）への塗装は避けてください。粘着や軟化が生じるおそれがあります。また、これら部材に直接塗膜が接触しないよう注意してください。
- ④蓄熱されやすい素材（軽量モルタル、ALC、高断熱型窯業系サイディング、発泡ウレタン使用建材など）を用いた「高断熱型外壁」で、旧塗膜が弾性リシンや弾性スタック、アクリルトップ等の場合、そのまま塗装すると環境条件によっては水や温度の影響で塗膜がふくれたり、はく離が生じることがありますので、旧塗膜は完全に除去してください。
- ⑤家具類（テーブル、カウンター、棚）、床、道具類（ベンチやジャングルジムなど）などへの塗装は避けてください。
- ⑥塗料用シンナーで溶解する旧塗膜や下地の場合には塗装しないでください。（ちぢみ、にじみ、ちうみ、割れ等発生する場合があります。）
- ⑦濃彩色仕上げの際、雑巾ウエス等で強くこすと、色落ちやつや変化が起こる場合がありますので、衣類などが触れる可能性のある部位への施工は避けてください。
- ⑧気温5℃以下（低温）、湿度85%以上（高湿）での施工は避けてください。
- ⑨屋外において降雨、降雪、強風のおそれがある場合は塗装を避けてください。
- ⑩塗装間隔は環境（温度、湿度、換気回数等）や膜厚によって変わります。
- ⑪所要量は、被塗物の形状や素材、塗装方法、環境などにより増減することがあります。
- ⑫塗膜に降雨や結露の影響を受けた場合は、白化やつや引けなどの異状が生じやすくなります。山間部や河川近くなどの夜露の早くおきる多湿地域では、より条件が厳しくなりますのでご注意ください。
- ⑬塗膜の乾燥硬化過程で、結露や降雨等の水分の影響を受けた場合、低汚染性能を損なう場合があります。水分の影響を受けるおそれがある場合は、塗装を避けてください。
- ⑭塗装仕様書に記載の数値は標準のものです。被塗物の形状、素地の状態、気象条件、施工条件により多少の幅を生じることがあります。
- ⑮塗膜性能を十分に発揮させるために、所定の塗り回数と塗分量確保による施工を行なってください。
- ⑯適用可能な旧塗膜は下地との付着性に問題なく、活膜であることを条件としています。
活膜下地（付着強度が0.7N/mm以上）
- ⑰旧塗膜に光沢が残っており劣化していない場合には付着不良や塗り重ねちぢみが発生する場合があります。旧塗膜表面の目荒らしを行ない、試し塗りによって確認のうえ塗装を実施してください。
- ⑱吸い込みの著しい下地では、「浸透形Mシーラー」/「アレスダイナミックシーラーマイルド」を推奨します。
- ⑲吸い込みの大きい下地や素材の場合は、塗分量が多く乾燥が遅くなりますので塗装間隔を長めにとってください。また、上塗までの塗装間隔が規定よりも短い場合、縮み、割れ、乾燥不良を起こすおそれがありますので注意してください。
- ⑳被塗物の形状、膜厚や色目、塗り回数、希釈率の差などにより、実際のつやと若干異なって見える場合があります。また塗継ぎ箇所ですつやむらを生じやすい傾向があります。試し塗りの上、本施工に入ってください。
- ㉑本品を塗装の際は、中塗や上塗に塗り残しや逃げがないようご注意ください。塗り残しや逃げがある場合、紫外線の透過によりシーラー塗膜が紫外線劣化を起し層間をはく離が生じるおそれがあります。
- ㉒吸い込みの少ない被塗物や新生瓦などの塗り替え時はシーラーを塗装後にガムテープで基材との密着性を確認し、ハガリが生じる部分は塗膜をはく離し、その部分に再度シーラーを塗付してください。
- ㉓鮮やかな赤系、黄系、青系、緑系の色で仕上げの場合は、隠ぺい性の良い共色で予め下塗してから塗装を行ってください。
- ㉔異なる上塗色で塗り重ねる場合（アクセントで帯状に色を塗り重ねる場合など）は、前工程の塗膜が塗料用シンナーAで溶解しないこと（硬化状態）を確認のうえ塗装を行ってください。
- ㉕主剤と硬化剤を混合したつやり物は、8時間以内（23℃）に使い切ってください。つや調整剤の場合は、5時間以内（23℃）に使い切ってください。
- ㉖無機系樹脂、光触媒処理、フッ素樹脂、シリコン樹脂など特殊な樹脂で処理された窯業系サイディングボードに塗装する場合は、下塗材として「アレスダイナミックシーラーマイルド」をご使用ください。なお、事前に試し塗り付着性を確認してください。付着性に問題がある場合は、目荒らしを行ってください。
- ㉗新設建材が押出成形セメント板やGRC板の場合には、下塗りを「浸透形Mシーラー」または「アレスダイナミックシーラーマイルド」をご使用ください。
- ㉘硬質塩ビ種やFRPの場合は、下地調整とし目荒らしと脱脂を行った上で塗装してください。
- ㉙シーリング打設幅が広く、構造体大きな動きが予想されるシーリング打設部への塗装は、塗膜がひび割れる可能性がありますので避けてください。
- ㉚シーリング面への塗装は、塗膜の汚染・はく離・伸縮割れ、粘着などの不具合を発生することがありますので行わないでください。やむを得ず行う場合は、本製品に対して塗装適合性のあるノンブリードタイプのシーリング材を用い、完全に硬化した後に行ってください。また、マルチエポキシコンクリートプライマー-EPO、シープラ、水性エポキシを下塗りとすることで、可塑性移行による汚染、粘着の低減が図れますが、シーリング材の種類、使用条件などによりはく離、伸縮割れが起こることがあります。
- ㉛シーリング面は、塗膜が汚染、はく離、取崩割れを起こすことがあるため、マスキングテープなどで養生を行い、塗装を避けてください。シーリング材を打ち替える場合は、後打ちとし、可塑性（油分）を含まないノンブリードシーリング材をご使用ください。
- ㉜つや調整品を仕上げの際は、塗り継ぎ部をつくらぬよう注意し、面を切って、通し塗りを行ってください。
- ㉝つや調整品は、膜厚、温度、塗色、塗り回数、塗装方法、希釈率、主剤/硬化剤混合後の時間差などによりつやの発現性が変化します。特にはく離・シーラー塗装時の塗継ぎ部では膜厚となり、その部位のつやが高くなり、つやむらを生じやす

- ①つや調整品は、高温などの乾燥が早い環境下ではつやむらが生じやすくなります。特に被塗面が直射日光で熱せられ高温になると塗膜の形成肌の凹凸が増え、さらに塗膜厚が不均一になりやすくなるためつやむらが生じやすくなります。
- ②足場解体時など、部分補修する際には、汚染ムラの発生原因となりますので、硬化剤の入れ忘れ、不足などに十分注意してください。

- ①傾向があります。試験施工で仕上りを確認の上、本施工を行ってください。
- ②つや調整品は、高温などの乾燥が早い環境下ではつやむらが生じやすくなります。特に被塗面が直射日光で熱せられ高温になると塗膜の形成肌の凹凸が増え、さらに塗膜厚が不均一になりやすくなるためつやむらが生じやすくなります。
- ③つや調整品を仕上げの際は、上塗1層目をつや有り、2層目をつや調整品としてください。但し、この場合の塗装間隔は1日以上あけてください。
- ④つや調整品は、使用中において塗料に含まれるつや消剤が沈降しやすい場合がありますので、適宜かくはんしながらご使用ください。
- ⑤つや調整品で補修の必要が生じた際は、面を切り、通しで塗装してください。（部分的に補修すると一般部とつや差が出て目立ちます。）つや調整品で面補修を行う際は、1日以上乾燥させてから行ってください。
- ⑥補修塗りは7日以内でおこなってください。それ以上経過して補修塗りをする場合、被塗面に水を霧吹きで噴霧し、水溜の親水化程度を点検してください。水溜が被塗面になじんでいる場合、周囲は既に親水化が発現しており、主剤/硬化剤比を遵守しても補修部が周囲よりも汚れる場合があります。この場合、区切りの良い面での補修塗りをしてください。
- ⑦外壁塗装の足場跡などの補修塗りの際には、硬化剤の入れ忘れに注意し、主剤/硬化剤を正確に計量し配合してから塗装してください。硬化剤の入れ忘れや硬化剤過不足の場合は汚染むら発生の原因になります。
- ⑧補修塗り用として使用塗料の控えを必ずとっておき、同一ロット、同一塗装方法で補修塗装をしてください。
- ⑨補修塗りの際は、塗装方法や凹凸肌のちがい等により、仕上がりに若干の差を生じる場合がありますので、部分的に試し塗りをした上で希釈量等を決定してください。
- ⑩ローラー塗装では同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がりが異なって見えることがあります。
- ⑪はけ塗り仕上げとローラー仕上げが混在する場合、仕上げ肌や色相に多少差が生じます。
- ⑫塗り替え塗装の前に、必ず高圧水洗やブラシを用いて、被塗面の付着物や劣化塗膜を十分に除去してください。下地調整が不十分な場合には塗膜はく離の原因となったり、光沢不足や色むらが発生するなど異常を生じるおそれがあります。
- ⑬改修時の既存塗膜はく離箇所は、予め既存塗膜の塗装仕様でパターン合わせを行ってください。
- ⑭改修時、漏水がみられる場合は、予め要因となっている箇所への防水処理を行ってください。
- ⑮新設コンクリート面に塗装する場合、pH10以下、表面含水率10%以下（ケツト科学社製CH-2型で測定した場合）、又は表面含水率5%以下（ケツト科学社製H1500シリーズ：コンクリートレンジで測定した場合）まで十分乾燥させてください。
- ⑯水洗直後は下地表面の含水率が高くなりますので、十分に乾燥（含水率10%以下：ケツト科学社製CH-2型で測定した場合）させた後に塗装してください。
- ⑰被塗物にカビや藻が繁殖している場合は、下地処理としてカビ・藻の除去および殺菌処理後、十分水洗し、乾燥してから塗装してください。
- ⑱塗装前の部位にワックスやクリーナーなどが残存している場合には、はじきや付着不良の原因となりますので、十分に除去してから塗装してください。
- ⑲タイル洗浄剤が塗面に付着した場合、塗表面の変色や早期劣化を生じることがありますので塗膜面の養生を行ってください。
- ⑳防カビ防藻性は繁殖の抑制の効果を示すものです。施工部位の構造や形状、環境条件などにより、これらの効果が十分に発揮されない場合があります。
- ㉑構造や部位、環境条件により低汚染性が発揮されない場合があります。（傾斜壁の下部、笠木のない壁、汚れが溜まりやすい窓周り、横目下地、降雨がからまない面や、シーリング材からの汚染物質の影響など）
- ㉒低温時の使用では、硬化剤混合後、時間が経ってもゲル化しない場合がありますが、ポットライフを過ぎた塗料は使用しないでください。塗膜性能不良の原因になります。
- ㉓主剤と硬化剤の混合比率が合っていない場合には、仕上がり性、耐熱軟化性、付着性、低汚染性、耐久性等の諸性能に影響しますので正確に計量し配合して下さい。
- ㉔塗料の希釈率は試験塗装などにより決定し、それ以降は同じ希釈率で塗装してください。
- ㉕規定範囲を超えて希釈すると、はじき・光沢低下・色味変化・だれ・隠蔽力不足など仕上りに異常をきたすおそれがありますので、所定の希釈率を遵守してください。また当該現場で一度めた希釈率はなるべく同一にしてください。
- ㉖使用前に塗料を均一にかき混ぜてください。特に濃色系塗料は保管期間が長いと容器内で顔料の分離が生じていることがありますので十分かくはんの上ご使用ください。
- ㉗塗料の希釈に「塗料用シンナーA」以外のシンナーを使用した場合、再溶解やちぢみ等の不具合を生じることがあります。
- ㉘塗装用具の洗浄にはラッカーシンナーをご使用ください。
- ㉙開栓後の塗料はできるだけ早く使い切ってください。また使用した塗料を元の塗料容器に戻さないでください。
- ㉚現場での材料は、容器が密栓されていることを確認し、直射日光や凍結を避けた屋内の冷暗所で保管してください。
- ㉛硬化剤は湿気を吸いやすいため、保管場所、保管状態に十分注意してください。また、湿気、水分と反応しゲル化変質しますので、開栓後は速やかに使い切ってください。
- ㉜溶剤系塗料ですので、室内塗装では溶剤蒸気が滞留しないよう十分な換気をしてください。また、屋外塗装においても溶剤蒸気が換気口から流入しないよう養生を行ってください。
- ㉝塗料が付着した布ウエス、紙、ローラーは引火、発火防止するため水に浸漬するなどして安全対策を行ってください。
- ㉞塗装時および塗料の取り扱い時は、換気を十分にを行い、火気厳禁にしてください。
- ㉟製品の安全に関する詳細な内容については、安全データシート(SDS)をご参照ください。

ご使用上の注意事項

下記の注意事項を守ってください。詳細な内容については安全データシート(SDS)をご参照ください。

- 【予防】** 取り扱った作業中乾燥中ともに換気を行い換気扇を回すこと、皮膚に付着しないようにすること。吸入に関する危険有害性情報がある場合、有機ガス用防毒マスク、又は、送気マスクを着用すること。又、取り扱い作業場所には局所排気装置を設けること。皮膚接触に関する危険有害性情報の表示がある場合、顔中・えり巻きタオル・長袖の作業着・前掛を着用すること。火気を避けること。静電気放電に対する予防処置を講ずること。火災を発生しない工具・防塵型の電気機器・換気装置・照明機器等を使用すること。裸火又は高温の白熱体に噴霧しないこと。本来の目的以外に使用しないこと。指定材料以外のものは混合（多液品の混合・希釈等）しないこと。缶の取っ手を持って振ったり、取っ手をロープやフックで吊り下げたりしないこと。取り扱い後は、洗顔、手洗い、うがい、及び、鼻孔洗浄を十分行うこと。使用済みの容器は、火気、溶接、加熱を避けること。本品の付いた布類や本品のかす等は水に洗って処分すること。
- 【対応】** 目に入った場合直ちに、多量の水で洗うとともに医師の診察を受けること。皮膚に付着した場合直ちに拭き取り、石けん水で洗い落とし、痛みや外傷等がある場合は、医師の診察を受けること。吸入した場合空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けること。飲み込んだ場合直ちに医師に連絡すること。無理に吐かせないこと。漏出時や飛散した場合は、砂、布類（ウエス）等で吸い取り、拭き取ること。火災時には、炭酸ガス、泡、又は、粉末消火器を用いること。
- 【保管】** 指定容器を使用し、完全にふたをして湿気のない場所に保管すること。直射日光、雨ざらしを避け、貯蔵条件に基づき保管すること。子供の手の届かない場所に保管すること。又、関連法規に基づき適正に管理すること。
- 【廃棄】** 本品の付いた布類や本品のかす、及び、使用済み容器を廃棄するときは、関連法規を厳守の上、産業廃棄物として処分すること。（排水路、河川、下水、及び、土壌等の環境を汚染する場所へ廃棄しないこと。）
- 【施工後の安全】** 本製品は揮発性の化学物質を含んでいますので、塗装直後の引渡しの場合は、施主様に対して安全性に十分に注意を払うように指導してください。例えば、不特定多数の方が利用される施設などの場合、立看板などでペンキ塗り立てである旨を表示し、化学物質過敏症ならびにアレルギー体質の方が接することのないようにしてください。

関西ペイント販売株式会社

関西ペイントホームページ
www.kansai.co.jp



お近くの営業所は
こちらから！

各種カタログご覧になれます。

※本カタログの内容については、予告なく変更することがありますのであらかじめご了承ください。

(23年11月10日PNA) カタログNo.750
頒布価格 1,000円(税込)